

## 認定施設ならびに教育関連施設についてのお知らせ(第3報)

社団法人日本形成外科学会理事長 中西 秀樹  
認定施設認定委員会委員長 丸山 優

2010年度(第26回)日本形成外科学会認定施設並びに教育関連施設の申請方法をお知らせいたします。データベースシステム(DBS)施行開始に伴い規約、提出書類などが変更されています(更新施設は、DBSを利用した報告が基本条件となります)。以下ご確認の上、提出、申請してください。

### I. 認定施設ならびに教育関連施設の申請

#### 1. 認定施設の申請(専門医制度細則第32条参照)

認定施設の申請資格は次の各項全てを充足すること。

- 1) 臨床研修病院であるまたはそれに準ずる総合的な病院(300床以上)である。
- 2) 原則として形成外科を診療科として標榜している。
- 3) 形成外科専門医が常勤している。
- 4) 形成外科研修カリキュラムを有する。
- 5) カリキュラムを満たすに必要な形成外科病床を常時有する。

#### 6) 形成外科手術が、以下の8項目のうち5項目以上を含む内容であること。

ただし、病院に特殊性がある場合、5項目を充足しなくても、認定施設認定委員会の審査を経て認定されることがある。

- (1)外傷 (2)先天異常 (3)腫瘍 (4)瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド  
(5)難治性潰瘍 (6)炎症・変性疾患 (7)美容(手術のみ)  
(8)その他(レーザー含む)

#### 7) 形成外科に関する教育研究活動(付記で示した実績点2点以上/年)を行っていること。

付記: 専門医生涯教育委員会が認めた学会・研修会での発表1回を1点とする。

単著または筆頭著書による形成外科に関する論文(審査年度(2010年1月~12月)に刊行された論文)を2点とする。(掲載証明書は認めません)

なお、論文の掲載誌の条件は、年に2回以上発行されており、査読がある学術雑誌で、第1発表者の所属施設がその施設名であること。(病院誌もこれに準じたもので認定施設認定委員会の審査をうける)

#### 8) a) 以下の2項目を充足すること。

1. 入院手術または全麻手術が年間150例以上であること。
2. 入院手術または全麻手術1例を係数1.0, 局麻手術1例を0.5とした場合の合計が年間200以上となること。

#### b) 手術件数が8項目中9件以下の項目が3項目以内であること

## 2. 教育関連施設の申請（専門医制度細則第 33 条参照）

教育関連施設への申請は、上長となる認定施設が行う。

教育関連施設の申請資格は次の各項を充足すること。

- 1) 形成外科専門医が常勤している。
- 2) 形成外科に関する教育研究活動（付記で示した実績点 1点以上/年）を行っていること。  
付記：専門医生涯教育委員会が認めた学会・研修会での発表 1 回を 1 点とする。  
単著または筆頭著書による形成外科に関する論文（審査年度(2010 年 1 月～12 月)に刊行された論文）を 2 点とする。（掲載証明書は認めません）  
なお、論文の掲載誌の条件は、年に 2 回以上発行されており、査読がある学術雑誌で、第 1 発表者の所属施設がその施設名であること。（病院誌もこれに準じたもので認定施設認定委員会の審査をうける）
- 3) 以下の 2 項目を充足すること。
  1. 入院手術または全麻手術が年間 80 例以上あること。
  2. 入院手術または全麻手術 1 例を係数 1.0, 局麻手術 1 例を係数 0.5 とした場合の合計が年間 130 以上となること。

## 3. 教育関連施設美容外科の申請（専門医制度細則第 34 条参照）

教育関連施設への申請は、上長となる認定施設が行う。

教育関連施設美容外科の申請資格は次の各項を充足すること。

- 1) 親となる施設の所定の推薦状がある。
- 2) 形成外科専門医が常勤している。
- 3) 形成外科年間カリキュラムを有する。
- 4) 形成外科に関する教育研究活動（付記で示した実績点 1点以上/年）を行っていること。  
付記：専門医生涯教育委員会が認めた学会・研修会での発表 1 回を 1 点とする。  
単著または筆頭著書による形成外科に関する論文（審査年度(2010 年 1 月～12 月)に刊行された論文）を 2 点とする。（掲載証明書は認めません）  
なお、論文の掲載誌の条件は、年に 2 回以上発行されており、査読がある学術雑誌で、第 1 発表者の所属施設がその施設名であること。（病院誌もこれに準じたもので認定施設認定委員会の審査をうける）
- 5) 以下 2 項目のいずれかを充足すること。
  1. 入院手術または全麻手術が年間 80 例以上あること。
  2. 入院手術または全麻手術 1 例を係数 1.0, 局麻手術 1 例を係数 0.5 とした場合の合計が年間 130 以上となること。ただし、上記条件が整っていても認定されない、あるいは逆の場合がある。

※ 以下の施設等は特殊な認定施設とし、その研修期間を上限 2 年間認める。

- ①こども病院 ②がんセンター ③熱傷センター ④救命・救急センター  
⑤手外科施設

※ 新たに設立された施設が新規として申請し、認定施設あるいは教育関連施設として認定された場合のみ、報告年度より研修施設として認められる。

## II. 年次報告書(更新)と変更届(専門医制度細則第40条参照)

### 1. 年次報告書(12月に発送)

認定施設および教育関連施設は毎年1回年次報告書を提出する必要があります。更新資格は上記「I. 認定施設ならびに教育関連施設の申請」を参照のこと。なお、教育関連施設が認定施設へ、あるいは認定施設が教育関連施設へ変更して申請する場合も年次報告書は提出ください

### 2. 変更届(12月に発送)

下記事項について変更があった場合は、年次報告書とともに変更届を提出すること。

- 1) 指導体制の変更
- 2) 教育関連施設の変更
- 3) その他報告が必要とされる診療施設の内容の変更

## III. 提出方法について

①年次報告書類、②データベースで集計した「患者資料」ならびに「手術件数」を書き込んだCD-Rをレターパック等にて郵送ください。データベースでの報告書作成については「V. データベースシステムを用いた「年間の患者数及び手術件数」報告書作成について」をご参考ください。

書類はA4にそろえご提出ください。学会発表は、当該学会名、開催期日が判明する部分と、発表者の氏名、所属が判明できる部分(それぞれにアンダーラインを付加する)、発表論文は別刷あるいは論文のコピーをお送りください。専門医生涯教育委員会が認めた学会・研修会でない学術雑誌、病院誌の場合は、冊子1冊を同封してください。

## IV. 審査料、受付期間等について

### 1. 審査料

認定施設、教育関連施設とも10,000円です。新規の場合、申請書類発行手数料1,000円が別途必要です。手引きとともに送られる振込用紙にて提出期間中に振り込むこと。

### 2. 新規申請書類の申し込み

当委員会あて「認定施設の申請書請求」、「教育関連施設の申請書請求」、「教育関連施設美容外科の申請書請求」のいずれか希望する書類名を明記の上、官製はがきまたは封書にてご請求ください。12月中旬以降に送付します。なお、申請書類発行手数料(1,000円)は審査料と併せて請求いたします。

### 3. 提出期間

提出期間は2011年1月1日～1月31日(必着)です。

### 4. 宛先

〒169-0072 東京都新宿区大久保2-4-12 新宿ラムダックスビル 10F  
(社)日本形成外科学会 認定施設認定委員会  
TEL 03-5287-6773 FAX 03-5291-2176

## V. データベースシステムを用いた「年間の患者数及び手術件数」報告書作成について

データベースCD内のドキュメント「8 sisetu nintei.pdf」3ページより抜粋

### 年間の「患者資料」と「手術件数」に関する申請書の作成方法

操作マニュアル(配布CD内のドキュメント「3 manual.pdf」)79-81ページの手順に従い、デスクトップ等に保存しますと、「患者資料」に関する「事務局送付データ2010.c2j」と「手術件数」に関する「年間の患者数及び手術件数 2010.xls」が自動的に作成されます。(疾患データ件数が多い場合、完了メッセージが表示されるまで時間がかかります)

①「事務局送付データ 2010.c2j」⇒このファイルを新しいCD-Rにコピーしてください。

②「年間の患者数及び手術件数 2010.xls」⇒いつもの年次報告書です。デスクトップに保存されましたら、エクセル(または互換ソフト)により開き、責任者名・新患者数・入院患者数を入力し、上書き保存してください。そして上記のCD-Rにコピーしてください。(印刷に関しては、「年間の患者及び手術件数」をエクセル(または互換ソフト)で開いて頂ければ可能となっております。)

なお、「手術件数」に関する申請書には、各施設での手術統計を解りやすくするために中分類(配布した疾患分類の資料を参考)までの数値が表示されるようになっています。しかし、実際の施設認定の条件には大分類の数値のみが対象となります。

### データベースを利用できない施設の提出方法について

院内における倫理委員会をパスしなかった場合や患者より登録拒否の申し出があったときなどの年次報告書提出については、ホームページをご覧ください。また、本年度より新たに加わった認定施設、教育関連施設については、初年度は紙媒体での提出でも認めます。

### 認定施設委員会より

認定施設認定の年次報告は、DBSを利用した報告が必須となります。院内の倫理委員会で本システムの運用が間に合わないなどの理由で参加できない施設に関しては、初年度(2010年次報告)は書類での申請を認めますが、次年度以降は原則として本システムを利用した報告に限定させていただきます。

より正確なDBを完成するためにも、ご協力いただけますようお願いいたします。

VI. 専門医生涯教育委員会が認めた学会、論文一覧を以下に記載します。

|   |  |
|---|--|
| <p><b>学会発表</b></p> <p>日本形成外科学会学術集会および日本形成外科学会基礎学術集会<br/>         国際形成外科学会<br/>         日本形成外科学会支部学術集会<br/>         国際熱傷学会<br/>         国際頭蓋顔面外科学会<br/>         国際美容外科学会<br/>         国際口蓋裂学会<br/>         国際マイクロサージャリー学会<br/>         国際手外科学会<br/>         その他の国際形成外科学会<br/>         (アジア太平洋地区, ヨーロッパ地区など)<br/>         各国の形成外科学会総会<br/>         日本形成外科学会地方会(東京地方会等)<br/>         日本形成外科学会学術講習会<br/>         (旧: 日本形成外科学会学術研修会、および日本形成外科学会インストラクショナル・コース)<br/>         日本口蓋裂学会<br/>         日本熱傷学会<br/>         日本頭蓋顔面外科学会<br/>         日本救急医学会<br/>         日本手外科学会(旧: 日本手の外科学会)</p> | <p>日本美容外科学会 (JSAPS)<br/>         日本先天異常学会<br/>         日本マイクロサージャリー学会<br/>         日本職業・災害医学会<br/>         日本頭頸部癌学会(旧: 日本頭頸部腫瘍学会)<br/>         日本褥瘡学会<br/>         日本創傷治療学会<br/>         日本頭蓋底外科学会<br/>         日本創傷外科学会<br/>         日本医学会総会<br/>         日本皮膚悪性腫瘍学会<br/>         日本臨床皮膚外科学会<br/>         日本形成外科手術手技研究会<br/>         (旧: 形成外科手術手技研究会, 形成外科内視鏡・手術手技研究会)<br/>         関連学会研修会<br/>         日本医師会生涯教育講座<br/>         複数施設の合同研究会</p> <p><b>論文・原著・著書掲載</b></p> <p>日本形成外科学会会誌<br/>         雑誌: 形成外科<br/>         関連学会誌<br/>         外国で発行の形成外科専門誌<br/>         その他の学術雑誌<br/>         関連著書(学術的なもの、医家向けのもの)</p> |
|---|--|

**【備考】** その他特に委員会が認めたものは略しますが、基準項目リストにある日本形成外科学会承認の関連学会・研修会ならびに国際学会で、2010年4月までに認められているものといたします。その他特に委員会が認めた関連学会・研修会ならびに国際学会は日本形成外科学会ホームページ ([http://www.jsprs.or.jp/senmon/22\\_tensuu.pdf](http://www.jsprs.or.jp/senmon/22_tensuu.pdf)) に掲載しております。

※年次報告書の内容については、企画調査委員会の資料となる場合がございます。

※認定施設認定委員会 委員

|  |
|--|
| 丸山 優 (委員長), 四ツ柳高敏 (北・東), 朝戸 裕貴 (関東), 小室 裕造 (関東)<br>横尾 和久 (中部), 上田 晃一 (関西), 橋本 一郎 (中・四), 上村 哲司 (九州) |
|--|